第2回箱根芸術祭

榎村綾子写真展　　仮説から始まるロマネスクの幻視

会期：2025年7月23日(水)〜8月25日(月)

開館時間：10:00-17:30 （最終日16:00まで）※各日、最終入場は30分前まで

※休館日：毎週火曜(8/12は開館）、第3月曜、ほか臨時休館有

入場料：大人500円、小中学生300円、未就学児童無料

会場：箱根写真美術館 (箱根町強羅1300-432)

同時開催：常設展　遠藤桂「富士山」

【開催概要】

箱根写真美術館では、第2回箱根芸術祭　参加企画展として、美術家・榎村綾子の作品展を開催致します。

「時を止める」カメラが生誕した原初に人々が抱いた「畏怖」の感情にこだわり続け、人々の本質的にある豊かな想像力を立ち上げ、イメージの飛翔を促す装置でありたいという作者の、詩的で幻想的な世界をご堪能ください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

カメラは、1839年にルイ・ダゲールがダゲレオタイプを考案した時が始まりである。流れゆく時間を一瞬で止め、人や風景がそこに刻印されたのを見て、人々が先ず覚えたのは畏怖の感情であったという。鳥のように自由に空を飛翔したいという願望は、ルネサンスの偉人レオナルド・ダ・ヴィンチが少年時に抱いた夢想であるが、時を止めたいという願望もまた夢想であり、もはやそれは叙事詩に相当するような巨大さをも孕んだものであった。今日、カメラは普及して、人々はそれを記録として愛好するに至っている。しかし私は、カメラが生誕した原初に人々が抱いた畏怖の感情にこだわり続けている。時を止めて、そこに自らが信念としている詩の領分をも入れたいと思っているのである。人々は誰もが本質的に詩人であり、豊かな想像力を持っている。私の写真がそれを揺さぶり、想像力を立ち上げて、人々の心にあるイメージの飛翔を促す装置でありたいと思っている。

ー榎村綾子



アポリネールの光の回廊 II ©Enomura Ayako（2019年制作）

場所はルーブル。パリ1区。
セーヌ河岸に建つ美の殿堂脇の小径。
その時、カメラを通して視た空間に、青の色彩を帯びた男女の彫像が彼方へと走り去る、それはあたかも幻視のように見えた。
その瞬間にふと浮かんだのはアポリネールの詩。
彼の『ミラボー橋』の一節は、＜　ミラボー橋の下をセーヌが流れる　日も暮れよ　鐘も鳴れ　月日は流れ　私は残る＞ であった。



【アーティスト紹介】

榎村　綾子　　ENOMURA　AYAKO

略歴：

同志社大学文学部卒業。津田塾大学で英語学を専攻しロンドン大学大学院入学許可修得（社会言語学）後、クリスティーズ、スレードスクールにて美術を学ぶ。

2006年より、ヨーロッパを撮影。他にコラージュ・ミクストメディア・油彩なども手掛ける。

活動：

2012年　4月Gallery Q（銀座）にて個展、9月銀座三越にて展示
2013年　3月銀座三越8階画廊「Art Meeting」に出品
2014年　4月ギャラリー ウーゴズ（南青山）にて個展
2015年　12月Gallery Q（銀座）に出品
2016年　9月Galerie Jouffroy（Paris）に出品
2018年、2019年　アート・ギャラリー884（本郷）にて個展
2020年　写真集を沖積舎より出版、インプレクサス（盛岡）にて二人展
2021年、2023年、2024年　アート・ギャラリー884（本郷）にて個展

PRESS RELEASE
Hakone Museum of Photography

[発行元・問合せ先]
箱根写真美術館　担当：遠藤詠子神奈川県足柄下郡箱根町強羅1300-432
電話 0460-82-2717 FAX: 0460-82-2717 URL　http://www.hmop.com
e-mail　info@hmop.com